



### 多様性を認め育む 多文化共生保育の最前線

しんえい保育園はブラジル、フィリピン、ペルー、日本の子供たちが通う保育園です。職員も日本人、ブラジル人、韓国人と多様で、多文化共生保育に力を入れています。様々な国の人が集まりますが、共通言語は「日本語」です。日本語を中心にそれぞれの言葉や文化に触れたり、生活習慣を知ること、多文化への理解を深めています。

この保育園の卒園児はほとんど日本の公立学校に入学します。そのため、保育園では、読み書きや数字の教育をしたり、日本の基本的な生活習慣を伝えるなど、日本の学校へつなげる取り組みをしています。また、在園中だけでなく、卒園後のつながりも大切にしているため、卒園児の参観会を見に行ったり、困ったことがあれば相談できる環境を作ったりしています。保護者に向けた子供のキャリア支援教育も行っています。

「今では入園希望者も多く、教育内容も充実していますが、設立当初は外国人の保育を行ったことがなかったので、試

行錯誤の日々でした。保護者に日本の文化や生活習慣の違いを理解されない時もありましたが、日本人側が押し付けるのではなく、相手を理解する姿勢を大事にしてきた結果、段々とお互いに理解できるようになりました」と園長の佐藤さん。「幼児期は人生を形成する基礎が作られます。だから、幼児教育は、日本人だけでなく外国人の子供にもとても大切なんです。これからも子供たちの教育について考え、それにプラスした新しいビジョンを持って進めていきたい」と、語ってくれたのは、保育園創設者である加藤さんです。

強い思いを持ち、ここまで保育園を作り上げたのも、子供たちの未来をしっかりと見据え、真剣に向き合っているから。外国にルーツを持つ子供たちが多い浜松だからこそ、注目すべき多文化共生保育なのではないでしょうか。



大きい非常ベル音とともに、避難訓練が始まりました。防災ずきんを被った子供たちが次々に階段から下りてきます。全員が下りた後は、きちんと整列。集団行動が行き届いています



「火事のときに気をつけることは何？」と日本語で確認すると、子供たちからも日本語で返ってきます。また、日本語の後にはポルトガル語の説明もあります。この園に長く通っている子は2言語が分かるんだとか！

普段の様子やイベントをSNSでも発信しています。保護者同士のつながりの場にもなっているようです。お出掛けスポットを紹介すると、週末に出掛ける親子もいて、どこに出掛けたいのか分からない人には、視野を広げるいい機会になっています



### Aula de Português

ポルトガル語を教える教室

### Livro Infantil

絵本

外国人家庭には日本語の絵本がないこともあるそう。日本語の絵本がすぐ手に取れるのは大事なことです

ひらがな・カタカナを読む練習。自分の名前をカタカナで書くので、特にカタカナは大切です



ブラジルの収穫祭であるフェスタ・ジュニーナの写真を。ルーツのある国の言葉・文化を大事にしています。これは、子供たちのアイデンティティの面でも大切なことです